



題字は松井岳洋筆

No.372

平成17年7月

発行

(社)日本詩吟学院岳風会 認可

神奈川 碩心会

発行者 加藤岳洵

編集者 磯村岳朋

神奈川県葉山町堀内206

Tel/Fax.046-875-3723

### 朗詠に於ける発音について

青少年部長 立澤 岳 晴

朗詠(吟詠)する上で一番大切なことは、「発音」です。言葉(熟語や成語、句)の読み方です。発音が不明瞭では何を言っているか分かりません。詩を正確に伝えるために言葉を大切に、明確に発音することが基本条件となり、正しいアクセントが要求されます。

正しく発音するには、母音の発音が重要です。母音(ア・エ・イ・オ・ウ・ン)の口の開け方、唇の形、舌の位置、顎の状態等、日頃、意識して発声練習することです。

例えば、「天」と吟じているのに「点」と聞えたり、「橋」なのに「箸」と伝わったり「神」が「紙」となってしまうのは、その詩の心まで損じます。現に、菅原道真作『海』で吟者が「海ならず」と吟じたつもりでも聴衆に「膿ならず」と聞えたり、また、『道灌』を借るの図に題すで「雨を衝いて」が「鉛を突いて」となっていたら、会場から一

瞬おやつ、というような笑いが漏れます。

ところで、昨年の葉山中学ふれあい講座でも詠じましたが、中一國語教科書の「言葉で考える」発音の基本」というテーマの中に石川啄木の『柳あおめる』が題材の一つとして含まれています。私達の朗詠集にも載っている、この歌を取り上げてみます。

この短歌は薄幸の歌人啄木が「石をもて追はるるごとく」ふるさと渋民村を出てからの追想の歌です。彼の脳裏に浮かんだ早春の景色と望郷の切ない思いが表現されています。

発音の要点としては、吟じ出し「やはらかに」の「は」は「わ」と発音し低音のラ音を基準音位とします。やなぎの鼻濁音に注意し「北上の」キタアとならぬよう促音の要領です。また、発音の型としては、第一音を低くする平板型、あるいは、高くする頭高型、第二音を高くする中高型が入っていて絶好の発音練習の教材短歌です。

是非、皆さんも日頃この短歌を朗詠し、正しい発音をマスターして下さい。

### 行事予定

○指導者吟道講座

日時・8月7日(日) 9時受付

場所・エポック中原

○全国少年少女吟道大会

日時・8月21日(日)

場所・九段会館

○高段者吟法講座

日時・9月4日(日)

場所・横須賀生涯学習センター

○碩心会秋季審査会

日時・9月18日(日) 9時受付

場所・葉山町福祉文化会館大会議室

### 冠稱授与(平成17年7月1日付)

冠稱が贈られました。

宗佑 上村 岳 章

### 許證受証者(平成17年7月1日付)

上席師範 中村 岳 郵

### 昇伝認許

(平成17年7月1日付)

(皆伝 9名)

146 齋藤翔岳

143 長谷川幹岳

140 矢島綾岳

145 町田紀岳

142 下村佳岳

139 根岸京岳

144 池田昭岳

141 矢嶋合岳

138 金子憲岳

(九段 7名)

118 神藤葉岳 117 沼田東岳 116 福本香岳  
113 石黒恵岳 112 徳本華岳 111 中村豊岳  
108 田中景岳

(十段 9名)

88 小金智岳 87 森 暎岳 86 中山俊岳  
85 人見海岳 84 守谷信岳 83 角田寿岳  
82 鈴木賢岳 81 西山隆岳 77 小池和岳

(総伝 6名)

50 水上岳昌 49 松川岳好 48 野田岳公  
47 臼井岳照 46 後藤岳道 45 加藤岳溪

平成17年度 碩心会総会報告

日時…7月11日(土)18時～20時50分  
場所…逗子文化プラザ会議室

出席者…44名+委任状(6)＝50名(84%出席率)  
議長…司会者発議により加藤岳洵会長を選出  
議題…

- (1)各部、各地区別経過報告(松井岳篁総務、上村岳章許証、高橋之岳企画、内山岳青教務、立澤岳晴青少年、磯村岳朋広報の各部長および森岳靚逗子大船、福本岳辰葉山地区長より具体的報告あり)
- (2)平成16年度決算報告(加藤芳岳会計部長)
- (3)同右監査報告(鈴木江岳監査)
- (4)報告事項承認(前記各経過報告及び決算報告は全員の拍手をもって了承。)

(5)平成17年度行事予定説明(総務部長)

(6)同右予算案審議及び承認(会員数暫減による総収入の減少を受けて各部の予算もほぼ一律削減されたが、実質の活動内容を低下させない努力をする旨各部より説明。)

(7)企画部長人事(現田中岳明部長からの辞任を認め後任に高橋之岳副部長を任命承認)

(8)一般質疑応答(建設的意見多く、特に会員減少への総本部も含めた対応策等あり)  
(註) 決算/予算の関係書類は各支部長あて配布されていますのでご参考下さい。

第26回碩心会吟道温習会

6月19日(日)葉山町福祉文化会館に於いて碩心会温習会が和やかな内にも整然と開催された。

当日は梅雨前の好天気恵まれ、早くから会員が続々と詰めかけ定刻の10時には広い会場もほぼ満席となった。開会冒頭の「碩心会の詩」の大合吟で会場に厳肅な空気が流れ、続く会員吟詠では皆さん顔なじみの登壇に盛大な拍手を送り緊張の中にも和やかな雰囲気醸し出された。

役員吟詠に続き、許証授与式が授証者全員が壇上に登壇して厳かに執り行われ会場から

盛大な祝福を受けた。

午後の部に入り先ずこの日最大のイベントの合吟コンクールが華々しく始まった。

出場は各支部を代表した18チーム、皆日頃の練磨の成果を発表する喜びに溢れ、その吟声の高低こそ差があるものの、姿勢から吟詠の調和までいずれも甲乙付け難く審査員席の諸先生の採点を悩ませた。結果は左記のように発表された。

優勝…真澄、2位…篁風、3位…幸和B  
4位…堀内、5位…真澄、篁風

後半の華、立体吟は毎回ながら美しい舞いが伴吟に乗って舞台いっぱいになり繰り広げられ一段と会場を和やかにした。



合吟コンクールで優勝した真澄チーム。  
向かって左から嶋津幸岳、佐藤由岳、高橋之岳の皆さん。

# 寒河江吟友会との姉妹会交流20周年吟行会

6月9日(木)～10日(金)

題 頌心會寒河江吟友會姉妹會盟約廿周年  
宇都宮岳徳

運葉の頌心 韻誌を傳え

卯州の吟友 詩情を齎む

相い親む姉妹 廿年の契

願くは斯の縁を持して 頌祭と共にするを

(通釈)

運葉を中心とする頌心会は吟詠、特に韻読の吟法を教え傳えています。

羽州の寒河江吟友会は詩ころを教え同志を育くみ増やしています。両会は姉妹会の会盟を結んで親交を続けて既に二十年になります。どうか此の縁を持続して共に名があらわれ会が栄えるようになりたいものです。



寒河江吟友会の皆様と共に吟魂碑前にて

篁風 高橋 陽 泉

6月9、10日の1泊2日、41名が参加し、全行程1台のバス移動で行われた。小生入会して3年2ヶ月程で、こうした催しに参加するのは初めてで、期待と多少の不安を持って出発した。バスは東北道をひた走り、寒河江に着く頃には暑い位の好天となり、最初の「さくらんぼ狩り」へと向かった。本場の佐藤錦をたらふくと、期待していたが今年は天候の関係でまだ未熟、代わりに早生種の紅さやかとなった。味は今一、一寸残念でした。

次はメインの20周年記念交歓会である。寒河江吟友会は50名の方が迎えてくれた。開会のことばに始まり「朗詠」の合吟、両会長の挨拶と続き、親睦会は和やかに交流を深めていたが、瞬く間に閉会の時が来て別れを惜しんで、初日最後の行事、吟魂碑に向かう。碑は松井岳洋先生揮毫によるもので、並んで祖宗範木村岳風先生の胸像が立ち、その佇まいは威厳さえ感じさせ、「辞世の短歌」の合吟では身の引き締まる思いがした。夜は天童ホテル、温泉に浸かり宴会となる。地元山形の花笠踊りを全員輪になって踊るなど、盛会のうちに終わった。

さて、2日目、8時30分出発。山寺へ向かう。芭蕉記念館を見学した後、半数位の方が奥の院へ上る。千を越す石段は厳しかったが

奥の院下の五大堂での合吟は気分爽快であった。次は最後の目的地、二本松少年隊の墓のある大輪寺である。皆で墓参する。そばにある「嗚呼二本松少年隊」の詩碑は松井岳洋先生揮毫によるものと知り、改めて先生の詩吟に尽くした心意気を実感した。全ての行程を終え、バスは帰路に着く。わずか2日間の旅であったが、初めて参加した私にはとても有意義であった。今回参加されなかった方々は、次回このような催しには是非参加されることをお勧めしたい。

### 戯歌紀行抜粋

宇都宮 岳 徳

- ◇6月9日 小雨のち晴れ
- ・一行41名逗子市役所前からバスにて首都高速・東北高速を北上し寒河江市へ
  - ・出発時 降りて案ずも 後は晴れ
  - ・車中は吟じ 一路寒河江へ
  - ・旨かりき 安積仕込みの ザ弁当
  - ・多彩の菜と 鮭親子飯
  - ・渋谷会館での20周年記念交歓会にて
  - ・こんにやくの 四ヶ一串 平らぐと
  - ・私の分もと 厚きもてなし
  - ・感激は 自作の漢詩 両会の
  - ・全員による 合吟となり
  - ・大沼農園のサクラノ畑の食べ放題で

未熟でも 碩心鳥 下りたてば  
さくらんぼの樹 丸裸なり  
吟魂碑前式に参列して  
吟魂碑 来るたび毎に 整備さる  
吟友会の 隆昌と共に  
吟友会の某氏に天童ホテルへ案内されて  
驚きは 天童までの ガイド振り  
「孫」を唱いつ 左右ガイドす  
天童ホテルでの懇親会にて  
初めて 上座に坐り 照れたるも  
美人女将の 酌は嬉しき  
ホテルでの 懇親会は 楽しかり

歌い踊りて 夢の二時間

- ◇6月10日 晴れ
- ・8時30分ホテルを発ちて
  - ・名残り惜し 一夜の縁の 湯の宿で
  - ・花笠振りて 送る仲居が
  - ・山寺芭蕉記念館を見学して
  - ・皆一句 ものせんとして ものし得ず
  - ・芭蕉の偉さ 胸に沁み入る
  - ・年蒿組は山寺の下の本堂側の茶屋で一服し、
  - ・若手組の奥の院見学の帰りを待つ
  - ・山寺の 虚子のゆかりの 茶屋楽し
  - ・美人店主の 説明を聞き
  - ・（参考）茶屋そばの虚子父子の句碑
  - ・いてふの根 床几斜めに 茶屋涼し
  - ・虚子
  - ・我もまた 銀杏の下に 涼しくて
  - ・牛尾



山寺芭蕉記念館前にて

山寺の 奥まで行かずも 有難たや  
代参したよと 云う人があり  
二本松少年隊士の墓前で合吟して  
今ならば 小中学の 生徒らが  
国に殉じて 死すに涙す  
帰路は往路の逆に高速道路を順調に走り  
18時逗子に無事帰着す  
二日間 懇親の旅 充実す  
しかも全員 無事故帰着で  
此の度も 寒河江吟行 いと楽し  
碩心会の 団結の源

## 神奈川地区大会開催

緑の木々から漏れる日差しが早くも初夏の到来を思わせる5月29日(日)、第13回神奈川地区吟道大会が川崎市麻生市民館大ホールで盛大に開催されました。早くから県下各地から会員が続々集結し、その大ホールも開会前には埋め尽くされました。

まず全員起立し厳肅に国歌斉唱をし、続く鹿嶋岳久大会副会長の開会挨拶では場内の空気がピンとしました。

会員吟詠が始まり数人の独吟の後各参加団体の大合吟が順に登場し、その力強い吟詠が広い会場いっぱい響き渡る頃には場内も賑やかに熱気が最高潮に達しました。

碩心会からは役員を中心とした構成で参加し、女性14名が「山中間答」男性12名が「自訟」を吟じこの大会の中心的団体としての雄姿を如何なくアピールしました。また、中頃の独吟の部では内山岳青先生が「涼州詞」を吟じ満場の拍手を浴びました。

午後の連吟コンクールには小金智岳、河田好風、福田喜風の3方が出場し課題吟「秋夜」を吟じ堂々の準優勝入賞を果たしました。合吟コンクールにも女性10名が出場しましたが残念ながら入賞は逸しましたがその吟詠は高く評価されました。

## 年齢別吟詠大会に参加して

瀨朗 海津 祥岳

去る7月9・10日の2日間に渡り、地球市民かながわプラザホールに於て第10回年齢別吟詠大会が開催され、漢詩の部、和歌の部に分かれて実施されました。私は9日に出吟しました。和歌の部から始まり漢詩の部に入り自分の出吟番が近くなると、もし詩文が出なくなったらと思ひ緊張気味でしたが、稽古通り出来たのでほっとしました。入賞結果発表の時、名前が呼ばれ、胸が一つぱいでした。皆さんの励ましがあればこそと思います。

尚、碩心会は2名が入賞しました。おめでとうございます。入賞者は次の通りです。  
西川幸岳(幸和A) 海津祥岳(瀨朗)

### わたしの雅号の由来

逗子A 佐竹 岳 扇(スイ)

私は昭和48年に初伝を頂きましたが、当時の三井先生に相談して「梢泉」を名乗った。その助言を頂き、感激しながら何回もこの雅号を書いたことが思い出されます。今は亡き先生の優しいお顔が目に浮かぶようです。

あの頃は詩吟も盛んで負けちゃいけないと心に鞭打って稽古に励んだものでした。そし

てようやく皆伝までたどり着きました。

佐竹家の家紋は扇を開いた中に○ですのでこの「扇」を借用し、岳扇(がくせん)と付けさせて頂きました。

堀内B 飛田 智 岳(興子)

私の母は、その生家が代々伝えた武術流派「薙刀大円鏡智流」の継承者である。常々母は一振りでも良いから形を覚えて欲しいと云っていたので、私は詩吟を始めた頃より薙刀も始めた。

平成10年皆伝の雅号を戴くにあたり、今迄の本名を入れた興岳(ともがく、よがく)とでは響きが良くないので前記「大円鏡智」の『智』を戴き「智岳(ちがく)」と名乗りました。智とは是非正邪を弁別(わきまを区別すること)断定し煩惱を絶滅する精神作用とされています。

昨年私は体調を崩し歩行困難となり詩吟を止める決心をしました。しかし先生始め教室の皆さんの暖かい励ましと支えに勇気づけられ一心にリハビリに励みました。結果再び教室に通えるようになり皆様と勉強を共にする幸せを感謝しております。

晴誉 嵐田 光 岳(平二)

私の吟入門は、65才(1983年)の時です。実は若い頃(1963年)或る彫りものの習い事に熱中していました。師は雅号を素光と云い私に「光業」の雅号を授けて下さいました。師の

一字を頂いた訳で感激した事を今でも憶えて居ります。師は私にプロに成ることを期待されたようですが、いろいろな経緯がありその後逝去された事もあって、私は60才の頃でしたか、この世界から手を引き制作活動を中止して居ります。

詩吟の雅号に「光」を付けたのは、この思い出と素光先生を偲んでのことです。

趣味の幅を拓けるのは心の健康に良いと思います。ましてや詩吟は「氣を養なうの道であり、精神を流通し中和の徳を養なう」のですからこんな良い事はありません。

私は1年後米寿を迎え又上岳の審査の時です。その時は折角親から貰った名の「平」を雅号で名乗り、吟道生活の最後を飾りたいと考えて居ります。

長柄 中尾 松山(益男)  
自分の本名は益男(えきお)。名前からはあまりバランスの良い雅号にはなりません。たまたま横浜の書道春秋社の天神支部に籍を置き、現在「教範」の位で「松鳳」の雅号を頂いています。

松鳳の「松」は横浜書道連盟の審査員であった故井上松山先生(天神書道会会長)の門下で師範以上に与えられる号です。

申す迄もなく漢詩と書道の関係は極めて深いものがあり、今後とも吟道と書道の両道を精進していきたいと念じております。

## 『訂正』

以下3箇所誤りを、訂正しお詫びします。

- 1、No.368 | P5 「詩吟舞発表会―葉山文化祭」の記事中「参加者の殆どは、吟が碩心会、舞が京愛会会員」↓「舞は京愛会と紫紅会会員」
- 2、No.371 | P3 「教場訪問―悠吟教場のなりたち」の記事中「柳道岳さんが昭和48年頃逗子商店街の店主を集め銀詠支部を作る」↓「昭和48年頃逗子商店街の事務局の三浦さんが業務の合間に商店主達に吟の指導をしていたが間もなく病没され、その後千葉剣風(当時)先生が橋本果物店主と協議して会の承認の下銀詠支部を作る」
- 3、No.371 | P4 「名簿訂正」加藤岳相(宗師) ↓ (宗師)

広報部

## 会員移動

○退会(6月1日付)

28佐竹岳扇 193鈴木聰風

○支部長変更

159山田量風 ↓ 165山本新風(東伏見)

○教室変更

253岩田義泉(吟秀A ↓ 吟秀新)

70市川邦岳(吟秀A ↓ 吟秀新)

○退会(7月1日付)

44大屋岳信(吟秀A 死去)

○支部移籍

5加藤岳相(吟秀A ↓ 諏訪)

※尚、吟秀支部A・Bはなくなりました。

## 編集後記

今年のNHK大河ドラマ「義経」は、教本に載っているものが多く、詩文を、思い起こしながら、テレビを見ています。「常盤孤を抱くの囀」「五条の橋」「青葉の笛」「壇ノ浦夜泊」「静御前」「稗搗きの歌」「安宅の関」「衣川」実朝の和歌、等々、あつ何が出てくるのか、楽しみです。

広報部

17年	7月現在	会員数
葉山地区		155名
逗子・大船地区		114名
合	計	269名